

令和 5 年度事業報告書 <白楽荘みくに湊・短期入所生活介護>

テーマ：福祉・医療・介護の地域共生社会の中で、安全で安心な魅力ある法人サービスを目指す

サブテーマ：入所者や家族と信頼関係を築き、安心して生活ができるよう支援する

1. 入所者が安心して生活が送れるようサービスの提供をおこなう（入所）

- ① コロナ禍の中、感染を持ち込まないように対応していたが、1月に湊チーム入所者にコロナ感染が拡がり、1名入院、1名看取りとなる。入浴制限や居室対応、面会中止等、入所者・家族には不安を与えてしまった。応援体制による職員同士の協力や連携、感染対応の継続、家族への連絡を早めに行うことで、苦情にならず、収束に繋がったのは良かった。
- ② 感染、防災の事業計画（BCP）を職員に周知し、実施訓練を行った。1月の能登沖地震では、建物の被害はなかったが、不安を訴える利用者への対応、チーム間での安否確認、また、海辺で近隣に住む普段ショートを利用している利用者と家族より泊まりたいと相談あり、緊急の受け入れを行った。福祉避難所として、地域連携の安心と安全を守ることができた。
- ③ ユニットケアの見直しとして、ユニットリーダー中心に勉強会を行い、ユニットケアの知識と日頃のケアの取り組みを振り返ることで、入所者の安心感と役割意識を高め、サービスの向上に繋げることが出来た。

普段からも定期的にケアの取り組みを見直し、入所者が生き生きとした生活が送れるよう努めた。

2. 在宅生活が継続できるよう、他事業所との連携を図る（短期）

- ① 利用者の変化時にはすぐに家族、ケアマネに連絡し対応に努めた。また、多職種連携にて、情報を共有し、異常の早期発見に対応できていた。

- ② 職員不足により、日曜が稼働できていない状態が続いている為、ケアマネや家族の要望に応えられない時があったが、入院枠にて多床室でショートを受け入れる等、柔軟に対応おこなっていた。

3. 職員のモチベーションを高め、働きやすい環境を作る

- ① 認知症基礎研修修了者 1 名、上級救命講習や、認知症セミナー等、様々な外部研修に参加し、職員の資質向上を図ることが出来た。また、毎月行われる施設内研修の参加率が向上した。参加できていない職員への課題解決が必要である。
- ② 全職員に面談をおこない、現状を確認し、より働きやすいように効果的な人事異動も含めた対応を行い、離職を未然に防ぐことが出来た。また、有給休暇も各チーム計画的に取得し、希望に応じて連休を取る等、職員のリフレッシュに繋げることが出来た。